

宮城県内に生息するマダニの病原体保有状況調査

研究期間：平成31年度～令和3年度

宮城県保健環境センター微生物部

背景

- ・マダニ媒介感染症はマダニが吸血するときにヒトへ感染させる
- ・国内のマダニ感染症は増加の傾向
- ・特に重症熱性血小板症候群（SFTS）はマダニ感染症のなかで致死率が高い
- ・過去の調査でSFTSウイルスを保有したダニを検出



目的

SFTSウイルスを中心としたマダニ媒介病原体が宮城県内のどのくらい存在するか調査して、現状を把握する。

県内でマダニ媒介病原体の存在が認められたときは、県民や関係機関へ注意喚起し感染リスクの低減に努める

方法

マダニの病原体保有状況調査

動物に付着したマダニ，草むらに生息するマダニから病原体の遺伝子を検出

愛玩動物の抗体調査

イヌ，ネコの抗体価測定



成果

マダニの病原体保有状況調査

動物に付着したマダニ 302個体 →
草むらに生息するマダニ221個体

検出せず

SFTSウイルス（重症熱性血小板症候群）
ボレリア属菌（ライム病，回帰熱）
リケッチア属（日本紅斑熱）

動物に付着したマダニ 5個体 →

検出*

Rickettsia heilongjiangensis (極東紅斑熱)
Rickettsia tamurae

*極東紅斑熱は2008年に仙台市で患者が報告されている。国立感染症研究所などのその後の追跡調査でイスカチマダニから*Rickettsia heilongjiangensis*が分離されている。本研究で*Rickettsia heilongjiangensis*が検出されたことから，検出された地域では病原体が保持されている可能性があること，感染リスクが高いことが考えられた。

愛玩動物の抗体調査

イヌ，ネコからSFTSウイルス，ダニ媒介脳炎ウイルスの抗体は検出されなかった

今後も調査を実施しマダニ媒介感染症の感染リスクの低減に努めたい